# 令和８年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子市立久木小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（〇良かった点や特徴ある点等　●課題や改善点等）

## 【　国語　】

≪言葉の特徴や使い方に関する事項≫

●「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題については、２問ある中で１問の正解率が 35.6%であり、県の正解率を約 10%下回っている。２問の無回答率は 9.9%と 14.9%で県の平均が 4.1%と 6.6%と比べると両問とも 5%以上高い。

≪情報の扱い方に関する事項≫

〇「情報と情報との関係について理解する、情報と情報との関係の付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る」問題について、県の正解率を 5%近く上回っている。

●反面、無回答率は 3%弱上回っている。

≪話すこと・聞くこと≫

≪話すこと・聞くこと≫

〇3 問中２問が県の正答率を上回っている。特に「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題」の正答率は 65.3%と、県の平均を 3.6%上回った。

●全ての問題で無回答率が県の平均より１から 2%近く高い。

≪書くこと≫

〇書くことに関する問題２問とも、県の平均を大きく上回っているが、特に「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る問題では、正答率が 44.6%と、県の平均 33.5%を大きく上回っている。

≪読むこと≫

〇問題数２問のうち、「目的に応じて、必要な情報を見つけることができるかどうかをみる」問題については、正答率が 66.3%と、県の正答率 55.5%を約 11%上回っている。

●問題数２問の無回答率が、6.9%と 20.8%であり、県の平均である 3.3%と 15.6%を上回っている。

≪児童質問紙　国語に関する質問≫

〇「国語の勉強は得意」「国語の勉強は好き」と回答した児童はそれぞれ 58%近くではあるが、「国語の授業の内容はよく分かる」には 86.3%回答している。

〇「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれたか」という問いに対して 92.4%の児童が「伝えてくれる」と回答しており、「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれたか」という問い対しては 84.3%の児童が「教えてくれる」と回答している。何れも県の平均値より 10%近く上回っている。

〇しかしながら「解答時間は十分だったか」という問いには 48.5%が不足と回答しており、県の平均を 18.9%上回っている。

## 【　算数　】

≪数と計算≫

○問題数８問の平均正答率は74.1％で、県の平均正答率を11.5％上回っている。

中でも、「異分母の分数の大小を反電子、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかみる」問題では、12.7％、「整数と小数の減法を計算することができるかどうかをみる」問題では15.2％、「単位分数の個数に着目し、数直線上の１を表す目盛りを捉えることができるかどうかみる」問題では18.7％、この３問は県の平均正答率より特に高い正答率である。

●「示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる」問題では、県の平均正答率より高かったものの、無解答率が6.9％と県の無解答率よりも３％高かった。

≪図形≫

○問題数４問の平均正答率は72.5％で、県の平均正答率を15.5％上回っている。すべての問題において県の平均正答率よりも５％以上高い。

中でも、「直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる」問題では17.5％、「体積の意味ついて理解しているかどうかみる」問題では22.4％、「日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では14.2％と、この３問は県の平均正答率よりも特に高い正答率である。

●「日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題は、県の平均正答率より高かったものの、無解答率が8.9％と県の無解答率よりも2.7％高かった。

≪測定≫

○問題数１問の平均正答率は83.2％で、県の平均正答率を3.5％上回っている。

「示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる」問題では、県の平均正答率より3.5％上回っている。

≪変化と関係≫

○問題数３問の平均正答率は58.7％で、県の平均正答率を14.5％上回っている。

中でも、「基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかみる」問題では17.5％、「百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる」問題では15.8％と、この２問は県の平均正答率よりも特に高い正答率である。

≪データの活用≫

○問題数４問の平均正答率は58.7％で、県の平均正答率を9.3％上回っている。

中でも、「日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述することができるかどうかみる」問題では14.2％、「示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見つけ、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では13.5％と、この２問は県の平均正答率よりも特に高い正答率である。

≪児童質問紙　算数に関する質問≫

○「５年生までに受けた授業では、図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役立つと思いましたか」という質問に「当てはまる」と回答した児童が県の平均よりも13.3％高い。

○「算数の勉強は得意」「算数の勉強は好き」と回答した児童はそれぞれ 68.7％と 65.7％で、「算数の授

業の内容はよく分かる」には 86.3%回答しており、何れも県の平均より 9%、7.3%、9.2%上回っている。

○「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えたか」という問いには 88.2%の児童が「当てはまる」と回答しており、県平均を7.6%上回っている。

○しかしながら「解答時間は十分だったか」という問いには19.8%が不足と回答しており、県の平均を9.8%上回っている。

◎児童質問紙の結果　特徴的なことや課題と考えられること等

＜基本的な生活習慣を問う項目について＞

○「朝食を毎日食べている」児童は 93.1%、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童は 84.3%、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童は 90.2%で、何れも県の平均と近い数値である。SNS や動画視聴時間の問いには、４時間を超える児童は 12.7%で県平均より 7.7%下回っている。

★家庭での基本的な生活習慣が身についている児童が多く、日常生活の中で落ち着いて過ごせている様子が伺える。

＜学校生活について問う項目について＞

○「学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話すか」には月に 1～2 回以上話せている児童が 61.8%、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」には 71.6%ができると回答している。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は 97%、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童は 91.2%、「友達関係に満足している」と回答した児童は 93.2%、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と回答した児童は 96.1%で、何れも県平均を上回っている。また、「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」と回答した児童は 78.4%で県平均を 11%上回っている。

★これらの結果から、児童は困り事や悩みについて、相談できる親、家族、先生がいると認識し安心して学校生活を送ることができており、友達や先生と良好な関係を築き、学校生活を楽しみ満足できている様子が伺える。

＜学習への取り組みについて問う項目について＞

○ 「プレゼンテーション（発表スライド）の作成」 について、肯定的な回答（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」）の割合が 84.3% であり、県平均（73.7%）を 10.6% 上回っている。特に「そう思う」と回答した割合は 64.7% であり、県平均（43.0%）を 21.7% 上回っている。しかし、否定的な回答の割合が 8.9% であり、県平均（19.2%）を 10.3% 下回っている。

○「発表時の工夫（資料・文章・話の組み立て）」について、肯定的な回答の割合が 79.5% であり、県平均（69.4%）を 10.1% 上回っている。特に「発表していた」と回答した割合は 47.1% であり、県平均（27.7%）を 19.4% 上回っている。しかし、否定的な回答の割合が 19.6% であり、県平均（28.3%）を 8.7% 下回っている。

○ 「既習事項を生かして考えをまとめる活動」について 肯定的な回答の割合が 87.3% であり、県平均（74.2%）を 13.1% 上回っている。

○「総合的な学習の時間での課題設定・発表」について肯定的な回答の割合が 88.3% であり、県平均（80.0%）を 8.3% 上回っている。特に「当てはまる」と回答した割合は 46.1% であり、県平均（35.1%）を 11.0% 上回っている。

○「総合的な学習の時間での ICT 活用」について肯定的な回答の割合が 90.2% であり、県平均（80.9%）を 9.3% 上回っている。特に「当てはまる」と回答した割合は 53.9% であり、県平均（41.4%）を 12.5% 上回っている。

○「学級会での話し合いと解決方法の決定」について、最も高い肯定回答である「当てはまる」の割合が 48.0% であり、県平均（32.7%）を 15.3% 上回っている。

★これらの結果から、本校の児童は各教科や総合的な学習の時間、学級活動等において、ICT 機器を効果的に活用しながら情報を整理し、相手に伝わるよう工夫して表現・発表する力や、互いの意見を生かして協働的に課題を解決しようとする意識が高く育っているといえる。 一方で、肯定的な回答が多数を占める反面、割合としては少数ながらも「当てはまらない」「そう思わない」と回答する児童や、自分の表現・活用に不安を残している児童も確実に存在しており、児童間での意識や技能の実態に差（個人差）が見られることも事実である。全体としての高い傾向を維持・伸長させつつも、こうした課題を感じている児童一人ひとりの躓きや不安に目を向け、固定的な格差を生じさせない指導・支援が求められる。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

◎引き続き、児童が自らの学びを振り返り、目標を立てて学習を進め、対話を通して学びを深め、自分の考えを構築していく「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりを進める。その際、話をしっかりと聴くことや、自分の考えを文章で表現するなどの言語活動に特に重点を置いて指導する。また、児童の自己理解、他者理解、相互理解を深め、児童相互のよりよい関係づくりに取り組み、主体的・対話的な授業を支える親和的な学習集団づくりを促進する

◎調査結果より、本校の正答率は、国語ではおおむね県平均と同じであり、算数では県平均を上回っている。国語では、文の中で漢字を正しく使うことができるかどうか見る問題で課題が見られた。書くこと、読むことでは、正答率が県平均を大きく上回っている一方で、無回答率が、県平均を上回っている点は課題である。算数では、５つの内容の中４つで県平均を９～15%以上上回っている。課題に正対し、粘り強く考える力がついてきている一方で、算数においても、無回答率の高さについては課題である。また、回答時間の不足を感じている率も高い。今後も、今後も校内研究を充実させ、各教科において、他者の考えをインプットしながら自分の考えをアウトプットする等、言語活動を重視し、思考力・表現力の一層の向上を図っていく。

◎本校の６年生児童は、家庭や学校における生活習慣が安定し、友だちや教師との信頼関係の中で安心して学校生活を送っていることがうかがえる。また、学習面においても、学んだことを自ら振り返り、次の学びや実生活に生かそうとする主体的な学習態度が育っていることが分かった。今後は、これらの良好な傾向をさらに伸ばすために、以下の点に重点を置いて指導を充実させていく。

・児童が自分の考えを根拠に基づいて表現し、他者と意見を交わす活動を一層充実させる。
・各教科等の学習で培った力を、実生活の課題解決や探究的な学びに結びつけられるよう指導を工夫する。
・教師が児童一人ひとりのよさや「～しようとする」想いを的確に認め、学びへの意欲や自己有用感を高める場面を意識的に設ける。
・家庭との連携を進め、生活習慣の定着や学びを支える環境づくりを継続して推進する。

これらの取組を通して、児童がより主体的に学び、互いを尊重しながら共に成長していく学校づくりを進めていく。